

東海支部報告

苗木城跡PW

(報告者 17期 渡邊 和文)

時：2018年11月17日(土)

メンバー：L. 渡邊(17)、森島(4)、野村(12)、
柴田夫妻(13)、川端(16)、小島(17)、吉田(17)、
安井(22)、黒岩(24)

行程：JR 中津川駅 10:15 集合、(タクシー)⇒
10:30 遠山資料館、苗木城跡ガイドツアー⇒
12:30 四十八曲がり→玉蔵橋→中津川駅前→
13:30 「うなぎ料理山品」(昼食懇談)
14:30 解散。

中山道中津川宿近く、木曽川右岸の城山に築かれた苗木城。戦国時代、織田と武田に挟まれながら生き延びた遠山氏。徳川に付いて改易されることなく十二代続く。明治維新を迎え、城が解体されたことを史料館で学ぶ。

城山にあった巨石を巧みに使って築いた石垣が残る城跡を、ガイドさんの示すCG写真と礎石で建物の姿を思い浮かべながら進む。頂上の巨石の上に天守の柱組が忠実に再現されて展望台になっている。周囲の樹木が伐採され、快晴の空のもと、南に笠置山、東正面に恵那山、さらに木曽駒ヶ岳と眼下に木曽川まで望める絶景を堪能。



〈苗木城跡 三の丸大矢倉の石垣前にて〉

ガイドさんと別れ、落ち葉の積もる城山の急斜面の四十八曲がりの道を下る。木曽川右岸ののどかな車道を進み、振り返ると城山頂上の柱組が我々を見下ろしている。玉蔵橋を渡り、中津川駅前を通り、うなぎ料理山品に到着。それぞれ好みのウナギ料理と飲み物で腹を満たしながら歓談。

栗きんとんを買って帰路に就く。歴史と眺望、美味を堪能したPWでした。

金山巨石群&蛍石採集PW

(報告者 17期 小島 敬)

時：2019年3月16日(土)

メンバー：13名、車4台

L. 小島(17)、森島(4)、中野(8)、野村(12)、
柴田夫妻(13)、佐野(15)、川端(16)、渡邊(17)、
吉田(17)、竹本夫妻(21)、黒岩(24)

行程：名古屋駅⇒郡上八幡IC⇒【金山巨石群】⇒
(昼食) 道の温泉駅「かれん」⇒【蛍石採集】笹
洞蛍石鉱山跡⇒「道の駅 平成」⇒名古屋駅

【金山巨石群】〔岐阜県下呂市・岩屋岩陰遺跡〕
金山巨石群リサーチセンター調査員の徳田紫穂さんに現地での解説をお願いしました。徳田さんたちは、太陽の運行と縄文時代の金山巨石群との関連性を20年以上研究してきました。その研究成果として、これら巨石群が太陽暦を観測する天文台として機能していたという仮説を提示しました。1時間半のガイド時間をゆうに越え、徳田さんが遺跡への熱い想いを語ってくれました。

【蛍石採集】〔笹洞(ささぼら) 蛍石鉱山跡〕
案内は、蛍石採集ツアーガイドの中島真一郎さん。笹洞白山神社で車を停め林道を2km歩いて鉱山跡へ。廃坑手前の河原で、みんな童心に帰って蛍石を探しました。紫外線ライトを当てると蛍石の部分が光るので、蛍石と石英を判別できます。1時間ほど「宝探し」をした後、廃坑内へ。採掘時には、トロツコから零れ落ちた蛍石が砕けて坑道内に積もっていきました。坑内は漆黒の闇。中島さんが紫外線ライトで足元を照らすと、ところどころ光りました。まるでアニメ『天空の城ラピュタ』での、飛行石の洞窟の1シーンのようでした。



〈笹洞蛍石鉱山跡・坑道入口にて〉

三島由紀夫の『潮騒』を訪ねるPW

(報告者 17期 小島 敬)

時：2019年4月13日(土)

メンバー：8名

L. 小島(17)、森島(4)、中野(8)、柴田夫妻(13)、吉田(17)、黒岩(24)、益川(26)

行程：鳥羽マリンターミナル⇒神島港→【昼食】
〔民宿「山海荘」〕→【寺田氏宅】〔三島由紀夫 逗留先〕→八代神社→神島灯台→監的硝跡→ニワの浜(カルスト地形)→古里の浜→鏡石→時計台跡の喫茶店→神島港⇒鳥羽マリンターミナル

絶好の島日和でした。晴れ渡って穏やかな伊勢の海を眺めながら、『潮騒』ゆかりの場所をたどって、神島をゆっくりと一周しました。



〈神島港「三島文学 潮騒の地」の前で〉

【民宿「山海荘」で昼食】豪勢な「潮騒 幕の内」をいただきました。近海で獲れた新鮮な魚介や島で採れた野菜をギュッと詰めた内容でした。特にグレ(メジナ)の煮魚が絶品でした。あまりのおいしさに酒盛りが始まり、PWはこれからだというのに、打ち上げモードに突入してしまいました。

【寺田氏宅を見学】神島を舞台にした『潮騒』執筆の為、1953年に2度、三島由紀夫は漁協組合長だった寺田宗一さんの家に滞在しました。今回、民宿「山海荘」にお願いして、三島が逗留していた寺田さんの2階の4畳半の畳部屋を見せていただきました。部屋には三島が執筆に使っていた机や、三島が寺田さんに贈った初版本などが展示されていました。案内していただいた女性は、山口百恵がロケに来た時の様子も話してくださいました。百恵ファンとしては、三島より百恵の話の方が興味深かった。

高賀山PW

(報告者 16期 川端 俊朗)

時：2019年6月22日(土)

メンバー：L. 竹本(21)、中野(8)、柴田訓子(13)、佐野(15)、川端(16)、黒岩(24)

行程：名古屋駅集合7:00→車にて岐阜県関市高賀神社→高賀の森公園駐車場9:00→岩屋→御坂峠→高賀山山頂12:00(昼食)→御坂峠13:15→高賀の森駐車場14:30→入浴後 解散

梅雨空が続く中、お天気を心配しながら、岐阜の高賀山(1,224m)へ出かけました。地味な山ですが、奈良時代建立の高賀神社から修験道が拓かれて、山岳信仰の対象になった山です。名古屋駅で集合し、車に分乗、東海北陸道を経由し、高賀神社の奥にある公園の駐車場に着きました。今にも降り出しそうな曇り空のなか、ゆっくりと登り始めました。頂上までの高度差は800m、登山道は杉(檜?)木立のなかの、よく手入れされている歩きやすい道です。途中、修験者がお籠りをしたという不動岩屋があり、古い道であることを改めて感じました。ここからは急登が続き、小雨も降り出し、日頃、お散歩程度の運動量の私には難儀な山歩きになりました。あごが出そうな頃に御坂峠に到着。そこからは広い尾根道を歩き、山頂へ。晴れていれば白山から越美国境の能郷白山な



どが見えるはずですが、低い雲が覆っており、展望は周辺の山々だけでした。

昼食も早々に下山開始。御坂峠まで下ると、すぐそばに舗装された林道があるが、どこへ行く道やら? 雨に濡れた急な下り坂は登り以上にしんどく、膝や太ももが悲鳴を上げている。それでも何とか頑張って岩屋まで降りてきました。岩屋の中は10人程度入れそうな不思議な空間でした。その後は駐車場までダラダラ下り、帰り道の公衆浴場で汗を流して解散しました。

田立の滝PW

(報告者 21 期 竹本 彰)

時：2019 年 9 月 13 日(金)

メンバー：L. 竹本(21)、森島(4)、佐野(15)、川端
(16)、高井(竹本の小学校同級生)

行程：地下鉄本郷駅集合 7：00⇒車にて名古屋 I
C⇒中津川 I C⇒田立の滝駐車場 8：30→田立の
滝<天河の滝→不動滝> (昼食) →往路を引き返
し→田立の滝駐車場 14：30→南木曽温泉 (入浴)
⇒地下鉄本郷駅集合解散 17：00

「田立の滝」は岐阜県木曽郡南木曽町を流れる
大滝川 (木曽川の支流) の峡谷にかかる無数の瀑
布の総称です。うるう滝、らせん滝、洗心(せん
しん)滝、霧ヶ滝、天河(てんが)滝、不動滝、そ
うめん滝等があります。日本の滝百選に選ばれて
います。佐野さんに竹本の家に来てもらって、す
ぐ近くの高井の家に寄って、豊田インターから名
古屋インターを経由して、地下鉄東山線本郷駅で
森島さん、川端さんと集合。また、名古屋イン
ターにもどり、中津川インターから国道 19 線を走
り、坂下から田立の滝の駐車場に入りました。帰
りは行きの逆です。天河の滝は素晴らしくて特に
おすすめです。以前は滝の落ち口へ行くことがで
きたのですが、今は入れないようになっていまし
た。誤って落ちたらまず命はないので。最後に不
動滝を右手に見ながら金属製の足場で作った道
をジグザグに上がって、滑になっている所で昼食
をとり、降りてきました。いいハイキングでした。



天河の滝

新年会

時：2019 年 1 月 26 日(土)

メンバー：森島(4)、中野、(8)、白井(9)、窪田
(11)、野村(12)、神林(13)、柴田訓子(13)、
川端(16)、小島(17)、渡邊(17)、安井(22)、
黒岩(24)、廣田(25)、

会場：名古屋駅前 奥志摩名駅中央店 別館



梅 典雅氏(19 期)の講演を聴講

中日文化センターの特別講演会

「白山の高山植物と白山信仰の歴史」

時：2019 年 5 月 31 日(金)

佐野(15)、川端(16)、小島(17)、渡邊(17)が参加

暑気払い

時：2019 年 8 月 31 日(土)

メンバー：森島(4)、中野(8)、白井(9)、窪田(11)、
森川(11)、野村(12)、神林(13)、柴田訓子
(13)、川端(16)、小島(17)、渡邊(17)、
竹本(21)、安井(22)、黒岩(24)、寺本(27)

会場：名古屋駅前 焼肉 牛わか

